

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		edu.base宇宿（児童発達支援） （R6.4月～含む）			公表日		2025年 2月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		環境を整え、活動に対して十分なスペースが確保できるように努めている。	幼児が安全に教材等を使用できるよう、手に届く場所にある物の安全性の確認を常に行っていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員間で連携を取りながら適切な配置数にしている。	事前に個別に支援する児童の情報の把握を行い、未然に怪我やトラブルが防げるよう気をつけていく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		事業所移転に伴い、幼児に分かりやすいように環境を整え、安全に過ごせるように配慮している。	次の活動への導線を考えながら、今から何をするのか視覚で理解できるようにカードなども作っていきたい。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃を行い、清潔な空間を保てるよう努めている。また、広く活動スペースを取れるよう環境調整をしている。	幼児の行動を予測して職員の立ち位置を意識したり、職員間での声掛けをしながら全体の状況が把握できるようにしていく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		集中して取り組みたい活動や落ち着かない幼児に対して個室を使用できるよう調整している。	個室に入ると死角で見えなくなることがあるため、周囲の状況も確認しながら個室の利用をしていく。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		リーダーを中心に主活動を回していき、活動後は幼児の気になる点など話し合う時間を設けている。	職員同士で幼児の情報を共通理解していき、1人ひとりが安心して過ごせる環境を作っていきたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者との連絡ツールを使い、回答の呼びかけを行い、より多くの意見を頂き、改善に繋げられるようにしている。	今回頂いた意見もしっかりと職員で確認し、改善へと繋げていきたい。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議の時間を設け、その都度意見交換を行うようにしている。また、上げられた意見を元に改善できるようにしている。	全体的場で言いにくい場合もあるかもしれないので、個別に話をしていく時間も設けていきたい。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	まだ外部評価ができていない。書類整理などもできていない部分もあるため、分担しながら行っていきたい。	今後、外部評価を行い、より良い支援に繋がるよう業務改善につなげていきたい。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		全体会議の際に研修の機会を作ったり、勤務の調整をし研修の参加率を上げる工夫をしている。	外部研修への積極的参加に努めていく。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		職員間で幼児の様子や課題を共通理解し、各関係機関とも連携を図りながら支援プログラムの作成を行っている。	引き続き、様子や課題の確認を意識して行っていく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		連絡ツールを活用したり、面談を通して保護者との情報共有を行い、その都度ニーズや課題の理解を分析するようにしている。	園への送迎が多いため、対面する機会が少ないため、無理のない範囲で積極的に連絡を取り合えるようにしていく。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画の作成時以外に、その日の活動の振り返りや課題の確認等を行い統一した支援ができるよう努めている。	話し合いに欠席している職員にもしっかりと情報伝達を行い、漏れがないようにしていく。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		それぞれの児童に統一した支援を行うことができるよう担当者会議を行っている。	支援内容や目標など、共通理解を深めていき、支援に繋げていく。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		児童ごとに標準化されたアセスメントシート・行動分析表を使用し確認できるようにしている。	アセスメントツールを全職員が使用できるよう研修や伝達を定期的に行なっていく。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインの趣旨に沿って具体的な計画書作成を行っている。	地域支援について、今以上に多くの支援方法を考え取り入れていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		数名のチームで1ヶ月の活動計画を立案している。毎月新しい活動を数個考えて提案も行っている。	曜日や頻度などバランスを見て引き続き活動プログラムを設定していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動内容を職員間で話し合い、その日の幼児数・メンバーによって内容を決めている。	幼児が楽しみを味わいながら様々な活動の経験ができるよう、プログラムの向上に努めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		幼児の年齢や課題に合わせて、個別の目標設定やそれに対しての振り返りを行い支援に繋げている。	今後も課題となる部分は、職員間で共有し支援計画に組み込んでいきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		ミーティング内で小集団活動においてそれぞれの幼児についての支援の仕方や目標について話を行っている。	活動内容等、その日のリーダーが中心となって連携を図っていききたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に話し合いの場を設けており、その日の支援の反省などを行っている。	話し合いの内容をしっかりと記録し職員間で情報共有が行えるようにしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援終了後に、利用幼児の担当職員が記録を行い、ミーティング時に情報共有を図っている。	記録の統一性を図り、検証・改善に繋げていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1回モニタリングの機会を設け、目標の達成率や現在の状況の共有、計画の見直しを行っている。	モニタリング時期以外でも必要があれば面談等を行い見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者や利用幼児の担当者が参加し情報の共有を行っている。	今後も積極的に参加し、得た情報を職員全体に共有していきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育所等訪問などを通して、園との連携を図っている。	引き続き、関係機関との連携を図れるようにしていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行利用先の施設と担当者会議を行い、支援内容の情報共有を図るようにしている。	引き続き、関係機関との連携を取っていき、支援の質の向上に努めていきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	4月からの開所のため、実際に小学校へ情報共有をまだ行っていない。	今後、幼児の就学時のスムーズな移行に向けて支援内容や情報共有にしっかりと務めていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		担当者会議等で情報の共有を図ったり、助言を受けたりし、支援に繋げている。	今後も連携をとり、支援に繋げていく。

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	園との交流は行っていないが、事業所内では、いろいろな園やご家庭から来所する幼児同士が活動を共にしている。	地域の中で他の幼児とも活動する機会を作っていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		活動の様子をその都度記録を通してお伝えし、また連絡ツールなどでご家庭の様子を聞くなど共通理解を図るようにしている。	今後も保護者との共通理解を深めていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	面談・モニタリング等では支援方法や接し方などの情報共有は行っているが、研修は機会を設けることができていない。	職員・ご家族が参加できる研修の機会や情報提供の場を作っていきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行い、疑問点などはないか確認を行っている。	今後も、分かりやすくお伝えできるよう努めていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約や面談時に保護者さんとお話や幼児との関わりを通して意思確認を行い、意向を汲み取り尊重しながら計画書の作成を行っている。	引き続き、契約時や面談の際に丁寧に保護者や幼児の意向をお聞きし、尊重しながらすり合わせを行っている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画の内容について具体的に説明を行い、共通理解を深め、同意を頂くように心がけている。	引き続き、支援計画について丁寧に説明を行っていきけるよう努めていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、相談に応じている。また、日頃から対面、電話、メール等でその都度お話を傾聴、助言ができるよう努めている。	ご相談しやすい雰囲気づくりを心がけていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	来年度の予定月に向けて、既に実施している他系列事業所の様子を参考に計画を立てている。	保護者会については今後の課題として検討中である。また、きょうだい交流の場も今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		連絡ツール等を使い、相談や申し入れに対し迅速な対応を努めている。また必要な場合は面談の時間を設けられるようにしている。	今後も迅速、かつ適切に対応していけるように体制を整えていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPやSNSを活用し、幼児の活動の様子や行事等を発信するようにしている。	SNS内での表現の仕方など、今後も工夫していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		常時、個人情報には留意して扱うことを職員間で意識するようにしている。	SNSを含めた個人情報の取扱には引き続き十分留意していきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		様々な状況の把握を行い、合理的配慮に努めている。	今後も研修等を通じてスキルアップしていきたい。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		運動会や夏祭り等、利用児の保護者や兄弟児などの参加もお声掛けし、参加しやすい雰囲気づくりを行っている。	地域への呼びかけはまだ足りない部分もあるため、今後、地域との関わりも深めていきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定しており、法定の研修・訓練を行っている。	保護者様への周知や幼児がいる状況での訓練を今後定期的に行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPの作成、定期的な訓練を計画・実施を行っている。	幼児参加型の避難訓練の実施機会を増やしていきたい。また、職員においても様々な状況に対応できるよう体制を整えていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		初回利用前に面談で持病や服薬の状況を確認、身体面で気をつけることはないかなど確認を行うようにしている。	医師の指示書を保護者様より共有を受けることができない状況にあるため、必要な場合は指示書の提出をお願いしていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーの有無の把握、共有を行っている。	現在、食事は事業所では行っていないが、家庭との連携を高め、アレルギーのある幼児に関しては医師の指示書を共有してもらい情報共有を行っていく。
非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的な安全確認を業務として行い、実施するようにしている。	職員間での安全管理に対する共通認識を今後も図っていく。

50 51 52 53	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	子どもの安全確保について十分に検討ができています。	家族等の通知、家族との連携について課題が残るため、今後取り組めるようにしていく。
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	事業所内で共有、会議を行い、改善への取り組みを行っている。	今後も常に安全面を十分意識して活動を行っていく。
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止についての研修を定期的の実施し、全員参加することができている。	研修だけでなく、普段の支援の中で都度振り返りながら虐待を防止する雰囲気作りに努めていく。
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束について組織的に基準を設け、研修を行うことができている。	保護者への周知、説明を今後も行っていく。